

「かめおか霧の芸術祭」× X（かけるエックス）～持続可能性を生み出すイノベーションハブ～

京都市（2020年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標	<ul style="list-style-type: none">・亀岡市は京都市中央に位置する盆地で人口86,569人（2024年4月）の自治体・京都市のベッドタウンとして発展してきたが、人口減少に伴う経済縮小が課題・11月から3月の朝方に市域全体を包み込む濃霧が発生する気候的な特徴がある・亀岡市に対するネガティブなイメージの象徴であった「霧」を地域資源の象徴としてとらえる「かめおか霧の芸術祭」をプラットフォームに、ヒト・モノ・カネのあらゆる資源をつなぎ、イノベーションが湧いてくるまちとする	2. 関連するゴール 
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	行政とアーティストとが協働で地域資源をリサーチし、分野横断的に人々をつなぎ、循環的な経済圏や新陳代謝のあるコミュニティを創り出す。アーティストが活動を魅せ、人々がその活動に関わることができる「 開かれたアトリエ 」を有効活用することにより、関係人口の交流やイノベーションを促し、各事業の連動を加速させていく。	
4. 自治体SDGs推進等に向けた取組	6. 取組成果	
起業とイノベーションの誘発 <ul style="list-style-type: none">・霧の芸術祭から生まれたアップサイクル生産支援● アナログとテクノロジー両面による農業の展開<ul style="list-style-type: none">・霧の芸術祭との接続による交流人口拡大・地元飲食店や加工品製造会社、給食現場とのタイアップ● プラごみゼロに向けた環境事業<ul style="list-style-type: none">・国内初のレジ袋禁止条例・エコウォーカー事業（参加型ごみ拾い）・リバーフレンドリーレストランプロジェクト（使い捨てプラスチックごみの削減に取り組む飲食店を認定）	起業とイノベーションの誘発 <ul style="list-style-type: none">・廃棄予定のパラグライダー生地使用のエコバック 14,800千円販売（2023年度）● アナログとテクノロジー両面による農業の展開<ul style="list-style-type: none">・食と農を軸としたイベント（やおやおや）実施 交流人口 のべ14,744人（2023年度）・農家とタイアップした飲食店 9社、企業とタイアップした加工品製造数 9品、給食における食糧自給率 59%（いずれも2023年度）● プラごみゼロに向けた環境事業<ul style="list-style-type: none">・プラスチック製容器包装の削減に取り組む事業者数 65社（2023年度）・エコウォーカー事業参加市民数 1,843名（2023年度）・リバーフレンドリーレストランプロジェクト登録 23店舗（2023年度）	
5. 取組推進の工夫	7. 今後の展開策	
令和3年4月に開設した「 開かれたアトリエ 」を拠点に、アーティストをはじめとした多様な主体との連携を進めている。行政課題の解決に資するものについては、かめおか霧の芸術祭実行委員会が市からの委託・補助事業として行っている。フライバッグ生産や観光プロジェクト等、収益が見込める取り組みは、法人組織による自走を目指す。	<ul style="list-style-type: none">・スタジアムにおけるデジタル・テクノロジー領域でイノベーションを創発するプロジェクト実施・芸術祭を通じた移住定住を促進・「Harvest Journey Kameoka」プロジェクトによる地域経済の活性化を図る・JAS認証取得を支援し、亀岡産野菜の高付加価値化を目指す・給水機等の設置を進めマイボトル使用を普及促進	
8. 他地域への展開状況 （普及効果）	視察対応（大田区、弘前市、長浜市 他24件 SDGs・環境・有機農業）、出展（エコプロ2023、オーガニックライフスタイル EXPO2023ブース）、講演（地域循環共生圏フォーラム2023）など	

SDGs未来都市等進捗評価結果報告シート

2020年度選定

京都府亀岡市

2024年9月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

亀岡市SDGs未来都市計画

「かめおか霧の芸術祭」×X（かけるエクス）
～持続可能性を生み出すイノベーションハブ～

京都府亀岡市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2020年～2022年

(1) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年	2030年（目標値）	達成度 （%）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	京都スタジアムにおけるデジタル・テクノロジー領域でイノベーションを創発するプロジェクト数【8.2 9.2】	2020年1月 0 件	2022年度 10 件	2030年 20 件	50%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
2	亀岡駅北口周辺の公園・緑地等整備面積【11.7】	2018年度 2 ha	2022年度 12.38 ha	2030年 26 ha	43%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
3	芸術家や起業家などの移住者数【8.3 11.3】	2018年度 2 組	2022年度 19 組	2030年 20 組	94%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
4	新規起業数【8.3 11.3】	2018年度 7 事業者	2022年度 23 事業者	2030年 100 事業者	17%	目標達成度が低いため、亀岡商工会議所をはじめとした経済団体等と連携して支援制度の周知を図り、取組達成へ向け推進を図る予定。
5	JR亀岡駅半径750m圏内での空店舗数【8.3 11.3】	2019年10月 25 店舗	2022年度 13 店舗	2030年 0 店舗	48%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
6	市内の事業者数【8.3 11.3】	2016年 605 事業者	2021年度 599 事業者	2030年 709 事業者	-6%	目標達成度が低いため、亀岡商工会議所をはじめとした経済団体等と連携して支援制度の周知を図り、取組達成へ向け推進を図る予定。
7	エネルギーの地産地消率【7.2】	2020年1月 60 %	2022年度 68 %	2030年（度） 70 %	80%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
8	公共施設・事業所への電力供給契約件数【7.2】	2020年1月 50 件	2022年度 72 件	2030年（度） 100 件	44%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
9	自家消費への電力供給契約件数【7.2】	2020年1月 0 件 ※亀岡ふるさとエナジー調べ	2022年度 2 件	2030年 10 件	20%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
10	再生利用が可能な荒廃農地【2.4 8.9 11.7】	2019年 55,831 m ²	2022年 75,183 m ²	2030年 55,831 m ²	-135%	目標達成度が低いため、第2期計画では指標を「遊休農地・耕作放棄地面積」に変更し、進捗確認を行う。
11	直売所数【2.4 8.9 11.7】	2019年 20 組織	2022年 18 組織	2030年 25 組織	-40%	目標達成度が低いため、第2期計画では直売所のPRを積極的に行い取組達成へ向け推進を図る予定。

京都府亀岡市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2020年～2022年

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年	2030年（目標値）	達成度 （%）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
12	日常における直売所利用率【2.4 8.9 11.7】	2019年 46.0 % ※直売所利用率は、総合地球環境学研調べ	2022年 48.6 % ※アグリフェスタ来場者アンケート	2030年 50.0 %	65%	目標達成度が低いため、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の手法により推進を図る予定。
13	新規就農者数【2.4 8.9 11.7】	2020年2月 70.0 人	2022年 85 人	2030年 120 人（累計）	30%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
14	既存集落まちづくり区域指定制度の許可件数【2.4 8.9 11.7】	2020年2月 2.0 件	2022年 19 件	2030年 50 件（累計）	35%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
15	農業産出額【2.4 8.9 11.7】	2017年 63.0 億円	2021年 62.6 億円	2030年 70 億円	-6%	目標達成度が低いため、第2期計画では有機農産物の販路開拓等により取組達成へ向け推進を図る予定。
16	プラスチックごみの排出量【8.4 12.4 12.5 14.1】	2018年度 810 トン	2022年度 892 トン	2030年（度） 654 トン ※使い捨てではないプラスチックごみ	-53%	プラスチック類の資源化を進捗管理するため、第2期計画ではKPIとしては「プラスチックごみの資源化量」に変更します。
17	プラスチックごみの回収率【8.4 12.4 12.5 14.1】	2018年度 100 %	2022年度 100 %	2030年 100 %	100%	KPIとして引き続き設定します。
18	ごみの資源化率【8.4 12.4 12.5】	2018年度 16.59 %	2022年度 16.73 %	2027年（度） 20.5 %	4%	目標達成に向け、排出者負担の適正化による排出抑制、分別区分の拡大による資源化量の向上などにより排出量と資源化量をそれぞれ改善を図っていくことで、第2期計画においてもKPIとして引き続き設定し、進捗を確認していきます。
19	ごみの最終処分量【8.4 12.4 12.5】	2018年度 25,062 トン	2022年度 24,052 トン	2027年（度） 20,610 トン	23%	埋立てるしかないごみの減量を進捗管理するため、第2期計画ではKPIを「埋立てるしかないごみの最終処分量」に変更します。
20	処理にかかる直接費用【8.4 12.4 12.5】	2018年度 851,674 千円	2022年度 1,068,550 千円	2027年（度） 758,923 千円	-234%	目標達成に向け、分別区分の拡大による焼却及び埋立て処理のコストを圧縮、広域処理の検討や収集及び処理工程の見直しなどにより処理の効率化を図っていくことで、第2期計画においてもKPIとして引き続き設定し、進捗を確認していきます。
21	環境啓発イベントへの参加人数【12.8 17.17】	2018年度 1,200 人（のべ）	2022年度 14,160 人（のべ）	2030年（度） 12,000 人（のべ）	120%	目標を達成しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
22	環境パートナーシップ提携企業数（協定締結またはHP掲載）【12.8 17.17】	2020年1月 33 社	2022年度 70 社	2030年（度） 200 社	22%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

京都府亀岡市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2020年～2022年

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年	2030年（目標値）	達成度 （%）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
23	エネルギーの地産地消率（再掲）【7.2】	2020年1月 60 %	2022年度 68 %	2030年（度） 70 %	80%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
24	公共施設・事業所への電力供給契約件数（再掲）【7.2】	2020年1月 50 件	2022年度 72 件	2030年（度） 100 件	44%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
25	自家消費への電力供給契約件数（再掲）【7.2】	2020年1月 0 件	2022年度 2 件	2030年 10.0 件	20%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年 実績	2022年 目標値	達成度 （%）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	発信と拠点設置による起業とイノベーションの誘発	フライバッグ（亀岡発のアップサイクル製品）生産数	2019年10月 200 個	2022年度 4,155 個	2022年度 5,000 個	82%	第2期計画では、フライバッグの年間販売総額の指標として進捗を確認していく。
		JR亀岡駅周辺城下町エリアの活用店舗数	2020年2月 6 店舗	13	2022年度 20 店舗	50%	第2期計画には記載はないが、目標値に対して順調に進捗しており、引き続き活用を図ってきたい。
		新規起業数	2018年 7 事業者	2022年度 23 事業者	2022年 30 事業者 (現在からの累計)	70%	目標達成度が低いため、亀岡商工会議所をはじめとした経済団体等と連携して支援制度の周知を図り、取組達成へ向け推進を図る予定。
		デジタル・テクノロジー領域でイノベーションを創発するプロジェクト数	2020年2月 0 件	2022年度 10 件	2022年度 3 件	333%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
2	アナログとテクノロジー両面による農業の展開	新規の農業体験プログラムによる交流人口	2020年2月 500 人（のべ）	2022年度 10,012 人（のべ）	2022年 4,500 人（のべ）	238%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
		有機JAS認証者数	2020年 6 人	2022年度 7 人	2022年 20 人	7%	目標達成度が低いため、第2期計画では給食用米生産者等の認証促進等により取組達成へ向け推進を図る予定。
		農家とタイアップした飲食店数	2020年2月 - 人	2022年度 8 社	2022年 10 社	80%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
		企業とタイアップした加工品製造数	2019年 3 品	2022年度 8 品	2022年 3品増 品加	167%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
		給食における食糧自給率	2018年 50 %	2022年度 51.0 %	2022年 60 %	12%	目標達成度が低いため、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の手法により推進を図る予定。

京都府亀岡市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2020年～2022年

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
3	プラごみゼロに向けた国内先導的な環境事業	国内初のプラスチック製レジ袋提供禁止条例の制定と施行	2020年1月 条例案作成	2022年1月 施行	2022年 施行	100%	目標を達成しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
		市民のエコバッグ持参率	2019年12月 82% ※レジ袋有料化協定店舗によるモニタリング調査	2022年度 98%	2022年 95%	123%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを99%に見直し更なる推進を図る予定。
		市内大規模イベントでのリユース食器使用率	2020年2月 60%	2022年度 75%	2022年 100%	38%	目標達成度が低いが、リユース食器の積極的な利用を一層呼びかけるなど、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
		エコウォーカー（参加型ごみ拾い）への参加市民者数	2020年2月 0人（3月募集開始）	2022年度 1,613人	2022年 1,000人	161%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを3,200人に見直し更なる推進を図る予定。
		リバーフレンドリーレストラン登録店舗数	2020年2月 0店舗	2022年度 25店舗	2022年 30店舗	83%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
		市民のマイボトル持参率	2020年2月 53%	2023年1月 70%	2022年 70%	100%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを80%に見直し更なる推進を図る予定。
		リフィルステーション設置数	2020年2月 29箇所 ※My Mizu登録数	2022年度 95箇所	2022年 100箇所	93%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況（自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組）

No	取組名	取組内容	指標名	当初値	2022年	2022年（目標値）	達成度(%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	亀岡ならではの地場産品や体験を市内外の客に販売する「マーケット／導線」の育成	亀岡ならではのモノ（地産地消）とコト（体験）など、生活を豊かにする技術や体験を市内外に発信するマーケットを育成する取組。2020年は「会いにくるマルシェ」として、移動型で実施した。	KIRI マルシェの年間売上総額	2020年2月 370万円	2022年度 229万円	2022年度 650万円	-50%	目標達成度が低いため、第2期計画では記載しないが、目標達成へ向け別の手法により推進を図る予定。
			KIRI マルシェへの参加事業者数	2020年2月 90事業者	2022年度 52事業者	2022年度 120事業者	-127%	目標達成度が低いため、第2期計画では記載しないが、目標達成へ向け別の手法により推進を図る予定。
			空店舗を活用する「まちなか」プロジェクトの参加事業者数	2020年2月 0事業者	2022年度 12事業者	2022年度 5事業者	240%	目標が達成できており、第2期計画には記載しないが、引き続き取り組みを推進する。
			フライバッグの年間販売総額	2020年2月 0億円	2022年度 16,500千円	2022年度 25,400千円	65%	順調に進捗しており、第2期計画に記載し、引き続き進捗を確認していく。
			「Harvest Journey Kameoka」プロジェクトの年間売上総額	2020年2月 0万円	2022年度 137,414円	2022年 500,000円	27%	目標達成度が低いため、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の手法により推進を図る予定。
1	亀岡ならではの地場産品や体験を市内外の客に販売する「マーケット／導線」の育成	・農泊推進事業 ・外国語ガイド養成 ・体験プログラムの開発など	「Harvest Journey Kameoka」プロジェクトの参加客数	2020年2月 0人	2022年度 211人	2022年 400人	53%	目標達成度が低いため、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の手法により推進を図る予定。

京都府亀岡市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2020年～2022年

No	取組名	取組内容	指標名	当初値	2022年	2022年（目標値）	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
2	交流の接点づくりとブランド化による新陳代謝のある農業コミュニティの実現	移動式屋台「やおやおや」を活用したイベント実施	やおやおやへの年間参加事業者数	2020年2月 12 事業者 (のべ)	2022年度 82 事業者 (のべ)	2022年度 125 事業者 (のべ)	62%	目標達成度が低いため、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の手法により推進を図る予定。
		移動式屋台「やおやおや」を活用したイベント実施	やおやおやへの年間参加者数	2020年2月 500 人 (のべ)	2022年度 10012 人 (のべ)	2022年度 4,250 人	254%	目標が達成できており、第2期計画には記載しないが、引き続き取り組みを推進する。
		新規就農者への就業支援、相談対応等	新規就農者数	2020年2月 70 人	2022年度 85 人	2022年 85 人 (累計)	100%	目標が達成できており、第2期計画には記載しないが、引き続き取り組みを推進する。
		芸術祭の開催場所としての直売所提供	芸術祭と提携する市内の直売所数	2020年2月 - 箇所	2022年度 5 箇所	2022年 2 箇所	250%	目標が達成できており、第2期計画には記載しないが、引き続き取り組みを推進する。
		・霧の亀岡 Harvest Journeys ツアー	「Harvest Journey Kameoka」プロジェクトの農業プログラム体験者数	2020年2月 0 人	2022年度 15 人	2022年 200 人	8%	目標達成度が低いため、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の手法により推進を図る予定。
2	交流の接点づくりとブランド化による新陳代謝のある農業コミュニティの実現	有機JAS認証取得支援事業等の事業検討	有機 JAS 認証者数	2020年 6 人	2022年度 7 人	2022年 20 人	7%	目標達成度が低いため、第2期計画では給食用米生産者等の認証促進等により取組達成へ向け推進を図る予定。
		HACCP導入に向けての検討	HACCP 認証の取得	2019年 検討開始	2022年度 導入済	2022年 導入済	100%	目標を達成し、第2期計画には記載しないが、引き続き取り組みを推進する。
3	市民一人ひとりに伝わるプラゴミゼロ施策の実行と発信	プラゴミゼロの理念にかなうサービス・取組、製品などの価値を発信する。	環境ブランドマークの使用団体/企業/製品数	2020年 6 団体5 企業1	2022年度 26 3団体2企業	2022年 50 団体・企業	45%	第2期計画には記載しないが、引き続き取り組みを推進する。
		環境先進都市の実現を目指す市の取組に対し、企業サイドからも賛同事業を行い、官民が面的な施策発信を行う。	パートナーシップ企業数（協定締結またはHP掲載）	2020年3月 33 社	2022年度 70 社	2022年 70 社	100%	目標を達成できているため、第2期計画では2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組として、引き続き進捗を確認していく。
		イベントを通し参加者が地域の豊かさに気づき、消費するだけでなく、豊かさの基盤となる環境を守る各種取組に参加することを促す。	官民主催の環境啓発イベントへの参加人数	2018年度 1200 人	2022年度 5408 人	2022年 (2020年からの累積) 4000 人	150%	目標が達成できており、第2期計画には記載しないが、引き続き取り組みを推進する。
3	市民一人ひとりに伝わるプラゴミゼロ施策の実行と発信	買い物時のマイバッグの使用率を高めるように啓発していく。	市民のマイバッグ持参率（再掲）	2019年12月 82.2 % ※レジ袋有料化協定店舗によるモニタリング	2022年度 98 %	2022年 95 %	123%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを99%に見直し更なる推進を図る予定。
		給水スポットの整備などを行うことにより、マイボトルの使用について啓発していく。	市民のマイボトル持参率（再掲）	2020年2月 53 % ※上下水道事業アンケート調査	2023年1月 70 %	2022年 70 %	100%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを80%に見直し更なる推進を図る予定。

京都府亀岡市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（4）三側面をつなぐ統合的取組の達成状況（自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組）

No	指標名	当初値	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	【経済→環境】プラスチック製容器包装の削減に取り組む事業者数	2020年2月 0 社	2022年度 62 社（年間）	2022年 50 社（年間）	124%	目標が達成されたため、第2期計画では記載しないこととした。
2	【経済→環境】KIRI マルシェ参画を通じて、ふるさと亀岡の環境（地域の魅力）を守る取組に参加した者の数	2020年2月 0 人（累計）	2022年度 373 人（累計）	2022年 100 人（累計）	373%	目標が達成されたため、第2期計画では記載しないこととした。
3	【環境→経済】亀岡発のアップサイクル製品による被雇用者数	2020年2月 0 人	2022年度 10 人	2022年 6 人	167%	目標を大幅に達成し、第2期計画でも引き続き取り組みを推進する。
4	【環境→経済】環境にイノベーションをもたらす企業の立地数	2020年2月 1 社	2022年度 2 社	2022年 3 社	50%	第2期計画には記載しないが、引き続き取り組みを推進する。
5	【環境→経済】本市の環境政策に関する年間メディア報道回数	2020年2月 26 回（テレビ）	2022年度 4 回（テレビ）	2022年 10 回（テレビ）	138%	目標が達成されたため、第2期計画では記載しないこととした。
6	【環境→経済】本市の環境政策に関する年間メディア報道回数	2020年2月 170 回（新聞）	2022年度 23 回（新聞）	2022年 50 回（新聞）	123%	目標が達成されたため、第2期計画では記載しないこととした。
7	【経済→社会】芸術祭の経済的活動に参画する新規就農者数	2020年2月 7 人	2022年度 19 人（累計）	2022年 40 人（累計）	36%	目標達成度が低いため、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の手法により推進を図る予定。
8	【経済→社会】芸術祭を通じて市内直売所や消費者、農家とのつながりができたことを実感する農家数（アンケート調査）	2020年2月 1 人	2022年度 19 人	2022年 30 人	63%	目標達成度が低いため、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の手法により推進を図る予定。
9	【社会→経済】芸術祭を通じて移住した新規就農者数	2020年2月 0 人	2022年度 0 人	2022年 5 人	0%	目標達成度が低いため、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の手法により推進を図る予定。
10	【社会→経済】市内に移住した芸術家数	2020年2月 5 人	2022年度 23 人	2022年 10 人（累計）	360%	目標を大幅に達成し、第2期計画でも引き続き取り組みを推進する。
11	【社会→経済】日常生活において亀岡産農産物を意識して購入する消費者の数（アンケート調査）	2019年8月 55 %	2022年度 73 %	2022年 65 %	180%	目標を達成し、第2期計画には記載しないが、引き続き取り組みを推進する。
12	亀岡発の環境ブランドマークを使用する農家の数	2020年2月 0 人	2022年度 0 人	2022年 5 人	0%	第2期計画には記載しないが、引き続き取り組みを推進する。

京都府亀岡市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（5）第1期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容

- ・(1)-6 市内の事業者数については、新型コロナウイルス感染症による消費活動の落ち込みに加え、物価高騰による材料費等の高騰が影響し、新規創業や事業継続が難しい状況にあったため、目標値を下回る結果となった。今後は亀岡商工会議所をはじめとした経済団体等との連携を強化して支援制度の周知を図り、取組達成へ向け推進を図る予定。
- ・(1)-16 プラスチックごみの排出量 2022年の目標値は達成できなかったが、分別区分の拡大及びプラ資源循環促進法第33条の活用によるマテリアルリサイクルの市民への見える化などを通じた市民啓発を通じて排出量抑制を図る予定。
- ・(1)-19 ごみの最終処分量：市内一円から収集した埋立てごみは、市内最終処分場で直接埋立てしていたが、埋立てごみの中間処理事業を開始し、市内最終処分場（資源化施設併設）で一時保管した埋立てごみのなかの資源化物をピックアップし、最終処分量の削減につながった。資源化品目の拡大と排出抑制施策の実施によって、最終処分量のさらなる圧縮を図る予定。
- ・(1)-20 処理にかかる直接費用 2022年の目標値は達成できなかったが、分別区分の拡大による焼却及び埋立て処理のコストを圧縮するとともに、広域処理の検討や収集及び処理工程の見直しなどによって処理の効率化を図る予定。
- ・(2)-2 有機JAS認証者数 2022年の目標値は達成できなかったが、学ぶ場としてのスクール、認証農産物の販路としての学校給食等の準備を行うことができた。今後は認証者数の増加に向けて、スクールや学校給食を活用した取組を進める予定。
- ・(2)-3 市内大規模イベントでのリユース食器使用率：対象イベントが少ないため、達成度が大きく増減しやすい。今後は、リユース食器の積極的な利用を一層呼びかけます。
- ・(3)-1（KIRIマルシェの年間売上総額）：目標値は650万円となっていたが、実績値は229万円だった。今後は、企画へのアーティストの参画をより強めることでマルシェの魅力を高める予定。
- ・(3)-1（KIRIマルシェへの参加事業者数）：目標値は120業者となっていたが、実績値は52業者だった。今後は、企画へのアーティストの参画をより強めることでマルシェの魅力を高める予定。
- ・(4)-10（市内に移住した芸術家数）：目標値は10人であるのに対し、実績値は23人だった。
- ・(4)-11 日常生活において亀岡産農産物を意識して購入する消費者の数 市内産農産物をPRするためのイベントの開催、市内直売所の新設などの効果があった。

●成果

- ・(1)-1 京都スタジアムを活用したイノベーションを創発する事業として、3年間で累計10社を採択し伴走支援を行ったことで、スタジアムを通じた亀岡市の魅力向上、地域経済の活性化につながった。
- ・(1)-19 最終処分量の削減
- ・(2)-2 有機JAS認証の前提となる、有機農業を学ぶ場として「亀岡オーガニック農業スクール」を開設した。有機農産物の販路として、お米を中心に学校給食への導入拡大を行った。
- ・(4)-10 市内に移住した芸術家の数が、目標値を大幅に達成した。
- ・(4)-11 市内農産物を購入できる場としての直売所のPRのため、直売所マップの作成・配布を行った。市内に新たに農産物直売所を整備するにあたり支援を行った。

●課題

- ・(1)-4 着実に新規起業数は増加しているものの、新型コロナウイルス感染症や物価高騰など社会情勢による影響もあり、目標値には達しなかった。
- ・(1)-19 さらなる最終処分量の削減。埋立てごみに含まれている製品プラスチックの資源化の推進。
- ・(2)-2 販路がまだ十分に広がっていないため、有機JAS認証取得に掛かるコストの関係で、認証取得まで進む生産者が少なかった。
- ・(3)-1 マルシェの売り上げ総額、参加事業者数が目標に達しなかった。新型コロナウイルス感染対策の影響もあり、思うように事業を実施できなかったことが大きな要因。
- ・(4)-11 市民の市内農産物購入への意識が高まる一方で、生産者等の高齢化により、小規模の直売所の閉鎖が続いた。

●今後の展望

- ・(1)-4,6、(3)-1,2 目標値を下回った項目については支援制度や事業自体の周知不足によるものが大きいと考えられるため、今後は各関係団体との連携を強化して周知を図り、取組達成へ向け推進を図っていく。
- ・(1)-10 農業従事者の減少は全国的に大きな課題であり、幅広い角度からの取り組みが不可欠となるが、若年層を中心として環境への配慮を行う意識が高まっていることから、環境負荷を低減する有機農業等の取り組みを強化することで、これまでとは違う農地利用を促進し、荒廃農地の拡大を食い止めていきたい。
- ・(1)-15 需要が拡大傾向にある有機農産物の販路を拡大するとともに、加工等による付加価値向上を検討し、産出額の増大に努める。
- ・(1)-19 埋立てごみへの資源化物の混入を抑制し、製品プラスチックの資源化を推進する。最終処分量の削減とプラスチック類の資源化を推進する施策に取り組んでいく。また、施策と直接結びつくKPIを設定し、より明瞭に施策の効果検証が行えるようにし、円滑なPDCAサイクルを実施していく。
- ・(2)-2 有機農産物に関する需要は拡大傾向にあり、また、給食用の有機農産物の生産者も増加していることから、数年以内に目標として設定した値は達成できるものと考えている。
- ・(2)-3 市内大規模イベントでのリユース食器使用率：対象イベントについては、2023年から全てのイベントでリユース食器を活用している。
- ・(4)-10 市内に移住する芸術家がさらに増えるように、引き続き取り組んでいく。
- ・(4)-11 SDGsの観点からも、資源の域内循環は非常に重要であり、積極的に地産地消を進めるとともに、地産地消の意義について啓発を進めることで、地産地消率は高まると考えている。

（6）有識者からの取組に対する評価

- ・芸術家や起業家等の移住者数が着実に増加しているのは必要な成果であると思われる。
- ・第2期計画では、「かめおか霧の芸術祭」× X（かけるエックス）のなかで、このXが重要であり、多様な人材の協働と参加、IOTやAIによるイノベーション、そして新産業創出等への展開を期待したい。